

11 歯科衛生士学科学生における臨床実習開始までの歯科器械習得状況

木口友美

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 歯科器械, 臨床実習前, 習得状況

はじめに

歯科医療に使用する歯科器械の種類は多種多様であり、全てのものを理解することは容易ではない。しかし、歯科衛生士は歯科診療補助をはじめ、予防処置等において歯科器械の形状や名称、用途の知識を求められる。そこで、今回、1年次と2年次の歯科器械の理解度を比較し、現状および問題点の把握と今後の指導に生かすことを目的とした。

対象および方法

対象：平成27年度M短期大学に在籍する歯科衛生士学科2年生71名である。

方法：1年次の平成26年9月（87種類）と、27年2月（100種類）の歯科器械実技テスト正答率および歯科器械分野別の正答率と、2年次の同年7月（20種類）の中から1, 2年次共に出题した13種類の歯科器械について、正答率の比較を行った。

結果および考察

1年次、第1回（9月）の正答率は71%、第2回（2月）は69%、2年次の正答率は69%であった。

1年次歯科器械分野別正答率では、歯内療法用器械と小児歯科用器械が最も高くなった。

その反面、口腔外科・麻酔用器械が63%と最も低くなった。これらは抜歯鉗子の種類が多いため、各種の鑑別が難しく正答率が低下したと思われる。

また、1, 2年次共に出题した13種類の歯科器械の正答率を比較すると、1年次53%、2年次66%となった。1年次に比べ2年次が高くなったのは、歯科診療補助実習Ⅱをはじめ、歯科器械を直接見て、触れる実習科目が増えたことで、理解が深まったものと思われる。しかし、臨床実習直前であることから、更なる正答率のアップが望まれる。

歯科器械別の正答率は図に示す通りで、歯科器械によって正答率にばらつきがみられた。2年次の歯科診療補助実習Ⅱで実際に学生自身が考え、選択しながら使用し、実物に触れた歯科器械は、1年次より正答率が高くなったと思われる。

1年次より2年次の正答率が低かった3種類は、術者が使うことが多い歯科器械のため、補助者である学生が直接触れる頻度が少ないためと考えられる。

また今後の課題として、歯科器械の理解をより深めるため、教科書の写真だけではなく、デジタル教材を活用し、使用場面等の動画も組み入れ、実際に近い状態で歯科器械を見ることのできる環境を整えていく必要があると考えられる。

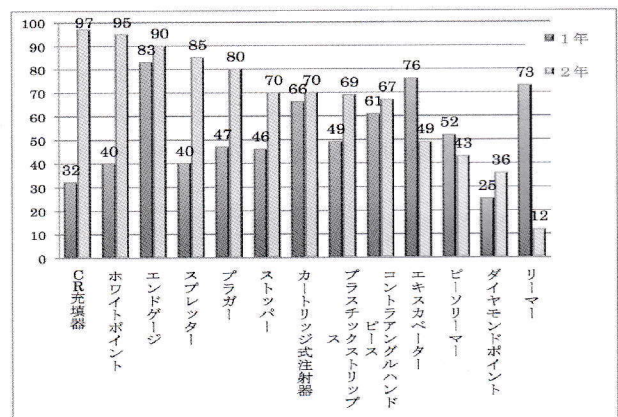


図 歯科器械別正答率

まとめ

1年次第1回歯科器械実技テストの正答率は71%で、最も高かった。また、1・2年次共に出题した13種類の同一歯科器械で比較すると2年次が13ポイント高くなった。学生が選択して術者に手渡しする歯科器械の正答率は高く、術者が直接選択し、使用する歯科器械の正答率は低い傾向であった。